

総合問題③ 財務諸表と連結修正仕訳との対応関係・個別利益と連結利益 B4

【個別財務諸表(平成 X 2 年度末～平成 X 3 年度)】

S 社貸借対照表

平成 X2 年 12 月 31 日 (単位：円)

諸 資 産	520,000	諸 負 債	300,000
		資 本 金	150,000
		利 益 剰 余 金	70,000
	520,000		520,000

S 社損益計算書

自平成 X3 年 1 月 1 日 至平成 X3 年 12 月 31 日 (単位：円)

諸 費 用	100,000	諸 収 益	160,000
当 期 純 利 益	60,000		
	160,000		160,000

※ S 社は平成 X3 年 3 月に剰余金の配当 20,000 円を行っている。

S 社貸借対照表

平成 X3 年 12 月 31 日 (単位：円)

諸 資 産	560,000	諸 負 債	300,000
		資 本 金	150,000
		利 益 剰 余 金	110,000
	560,000		560,000

【連結修正後財務諸表(平成 X 2 年度末～平成 X 3 年度)】

S 社貸借対照表

平成 X2 年 12 月 31 日 (単位：円)

諸 資 産	520,000	諸 負 債	300,000
の れ ん	36,000	子 会 社 株 式	200,000
		利 益 剰 余 金(取得後剰余金)	12,000
		非 支 配 株 主 持 分	44,000
	556,000		556,000

S 社損益計算書

自平成 X3 年 1 月 1 日 至平成 X3 年 12 月 31 日 (単位：円)

諸 費 用	100,000	諸 収 益	160,000
の れ ん 償 却 額	4,000	受 取 配 当 金	▲ 16,000
非支配株主に帰属する当期純利益	12,000		
親会社株主に帰属する当期純利益	28,000		
	144,000		144,000

S 社貸借対照表

平成 X3 年 12 月 31 日 (単位：円)

諸 資 産	560,000	諸 負 債	300,000
の れ ん	32,000	子 会 社 株 式	200,000
		利 益 剰 余 金(取得後剰余金)	40,000
		非 支 配 株 主 持 分	52,000
	592,000		592,000

【仕訳一巡(連結第 2 年度期首～連結第 3 年度期首)】(単位：円)

◆ 連結第 2 年度開始仕訳 (平成 X3 年 1 月 1 日) 親会社持分当期首残高

資本金当期首残高	150,000	子 会 社 株 式	200,000
利益剰余金当期首残高	70,000	利 益 剰 余 金 当 期 首 残 高	12,000
の れ ん	36,000	非支配株主持分当期首残高	44,000

※ 本試験では(借方)と(貸方)の利益剰余金当期首残高を相殺して下さい。

◆ 当期純利益の個別消去・連結振替 (本来の手続きではありません)

当 期 純 利 益	60,000	当 期 純 利 益	60,000
-----------	--------	-----------	--------

◆ 当期純利益の非支配株主への按分：60,000×20%=12,000

非支配株主に帰属する当期純利益	12,000	非支配株主持分当期変動額	12,000
-----------------	--------	--------------	--------

◆ のれんの償却

の れ ん 償 却 額	4,000	の れ ん	4,000
-------------	-------	-------	-------

◆ 配当金の相殺消去等

受 取 配 当 金	16,000	剰 余 金 の 配 当	20,000
-----------	--------	-------------	--------

非支配株主持分当期変動額	4,000
--------------	-------

◆ 連結第 3 年度開始仕訳 (平成 X4 年 1 月 1 日) 親会社持分当期首残高

資本金当期首残高	150,000	子 会 社 株 式	200,000
利益剰余金当期首残高	110,000	利 益 剰 余 金 当 期 首 残 高	40,000
の れ ん	32,000	非支配株主持分当期首残高	52,000

※ 本試験では(借方)と(貸方)の利益剰余金当期首残高を相殺して下さい。

総合問題③ 財務諸表と連結修正仕訳との対応関係・色分けなし B4

【個別財務諸表(平成 X 2 年度末～平成 X 3 年度)】

S 社 貸借対照表
平成 X2 年 12 月 31 日 (単位: 円)

諸 資 産	520,000	諸 負 債	300,000
		資 本 金	150,000
		利 益 剰 余 金	70,000
	520,000		520,000

S 社 損益計算書
自平成 X3 年 1 月 1 日 至平成 X3 年 12 月 31 日 (単位: 円)

諸 費 用	100,000	諸 収 益	160,000
当 期 純 利 益	60,000		
	160,000		160,000

S 社 貸借対照表
平成 X3 年 12 月 31 日 (単位: 円)

諸 資 産	560,000	諸 負 債	300,000
		資 本 金	150,000
		利 益 剰 余 金	110,000
	560,000		560,000

※ S 社は平成 X3 年 3 月に剰余金の配当 20,000 円を行っている。

【連結修正後財務諸表(平成 X 2 年度末～平成 X 3 年度)】

S 社 貸借対照表
平成 X2 年 12 月 31 日 (単位: 円)

諸 資 産	520,000	諸 負 債	300,000
の れ ん	36,000	子 会 社 株 式	200,000
		利 益 剰 余 金(取得後剰余金)	12,000
		非 支 配 株 主 持 分	44,000
	556,000		556,000

S 社 損益計算書
自平成 X3 年 1 月 1 日 至平成 X3 年 12 月 31 日 (単位: 円)

諸 費 用	100,000	諸 収 益	160,000
の れ ん 償 却 額	4,000	受 取 配 当 金	▲ 16,000
非支配株主に帰属する当期純利益	12,000		
親会社株主に帰属する当期純利益	28,000		
	144,000		144,000

S 社 貸借対照表
平成 X3 年 12 月 31 日 (単位: 円)

諸 資 産	560,000	諸 負 債	300,000
の れ ん	32,000	子 会 社 株 式	200,000
		利 益 剰 余 金(取得後剰余金)	40,000
		非 支 配 株 主 持 分	52,000
	592,000		592,000

【仕訳一巡(連結第 2 年度期首～連結第 3 年度期首)】 (単位: 円)

◆ 連結第 2 年度開始仕訳 (平成 X3 年 1 月 1 日)

資本金当期首残高	150,000	子会社株式	200,000
利益剰余金当期首残高	70,000	利益剰余金当期首残高	12,000
の れ ん	36,000	非支配株主持分当期首残高	44,000

※ 本試験では(借方)と(貸方)の利益剰余金当期首残高を相殺して下さい。

◆ 当期純利益の個別消去・連結振替 (本来の手続きではありません)

当 期 純 利 益	60,000	当 期 純 利 益	60,000
-----------	--------	-----------	--------

◆ 当期純利益の非支配株主への按分: $60,000 \times 20\% = 12,000$

非支配株主に帰属する当期純利益	12,000	非支配株主持分当期変動額	12,000
-----------------	--------	--------------	--------

◆ のれんの償却

の れ ん 償 却 額	4,000	の れ ん	4,000
-------------	-------	-------	-------

◆ 配当金の相殺消去等

受 取 配 当 金	16,000	剰 余 金 の 配 当	20,000
-----------	--------	-------------	--------

非支配株主持分当期変動額	4,000		
--------------	-------	--	--

◆ 連結第 3 年度開始仕訳 (平成 X4 年 1 月 1 日)

資本金当期首残高	150,000	子会社株式	200,000
利益剰余金当期首残高	110,000	利益剰余金当期首残高	40,000
の れ ん	32,000	非支配株主持分当期首残高	52,000

※ 本試験では(借方)と(貸方)の利益剰余金当期首残高を相殺して下さい。

総合問題③ 財務諸表と連結修正仕訳との対応関係・練習用 B4

【個別財務諸表(平成 X 2 年度末～平成 X 3 年度)】

S 社貸借対照表

平成 X2 年 12 月 31 日 (単位:円)

諸 資 産	520,000	諸 負 債	300,000
/		資 本 金	150,000
		利 益 剰 余 金	70,000
<hr/>		<hr/>	<hr/>
520,000		520,000	

S 社損益計算書

自平成 X3 年 1 月 1 日 至平成 X3 年 12 月 31 日 (単位:円)

諸 費 用	100,000	諸 収 益	160,000
当期純利益		60,000	
<hr/>		<hr/>	
〇〇〇〇		〇〇〇〇	

※ S社は平成 X3 年 3 月に剰余金の配当 20,000 円を行っている。

S 社貸借対照表

平成 X3 年 12 月 31 日 (単位:円)

諸 資 産	560,000	諸 負 債	300,000
/		資 本 金	150,000
		利 益 剰 余 金	110,000
<hr/>		<hr/>	<hr/>
560,000		560,000	

【連結修正後財務諸表(平成 X 2 年度末～平成 X 3 年度)】

S 社貸借対照表

平成 X2 年 12 月 31 日 (単位:円)

諸 資 産	520,000	諸 負 債	300,000
/			
<hr/>		<hr/>	<hr/>

S 社損益計算書

自平成 X3 年 1 月 1 日 至平成 X3 年 12 月 31 日 (単位:円)

諸 費 用	100,000	諸 収 益	160,000
/			
<hr/>		<hr/>	<hr/>

S 社貸借対照表

平成 X3 年 12 月 31 日 (単位:円)

諸 資 産	560,000	諸 負 債	300,000
/			
<hr/>		<hr/>	<hr/>

【仕訳一巡(連結第 2 年度期首～連結第 3 年度期首)】(単位:円)

◆ 連結第 2 年度開始仕訳 (平成 X3 年 1 月 1 日)

◆ 当期純利益の個別消去・連結振替 (本来の手続きではありません)

◆ 連結第 3 年度開始仕訳 (平成 X4 年 1 月 1 日)

◆ 当期純利益の非支配株主への按分

◆ のれんの償却

◆ 配当金の相殺消去等